

協田巧彦の目

川口リリアでの川井郁子バイオリン・コンサートは満席。ジャンルを超えた演奏に、第一人者の多才ぶりを見た思い。

川井郁子のバイオリン・コンサートを、川口リリア音楽ホールで聴いた。川井は芸大出の日本を代表するバイオリニストだが、その音楽活動はクラシックにとどまらない。ポップス系、演歌系、さらには、バレエダンサー、フィギュアスケーターとも組んでのジャンルを超えた活動に、以前から注目していた。

たまたま、この夜は浅田真央が五輪で銀メダルを取った日と重なった。



かつて、渡辺淳一原作「愛の流刑地」の映画化の時、ヒロイン

裾をつま先でけって、体全体で情熱的に表現。クラシックのときは、体を弓状にしなやかに。独特のポーズが妖えんだ。満席の客席からは、演奏ごとに「ラフォー」の声援が惜しげもなく送られた。

この日は昼間、都内でフランス映画「オーケストラ」の試写を見て、劇中で使用されたクラシックの名曲の数々に酔ったばかり。一日に、品格のあるクラシック音楽映画と、素晴らしい川井郁子のライブを味わい、幸せだった。

とにかく、川井は多才なバイオリニストだ。トークや女優としての素質もある。

「私、真央さんともお仕事したことがあるけど、彼女のフィギュアは心配で直視できません。後でビデオで確認します」と、ナイーブな一面を見せていた。選曲も多彩。リベルタンゴ、ピアソラ、エル・チョクロらおなじみの曲を巧みに取り入れる一方、シヨパン、シューマン、メンデルスゾーン、サンサーンス、パガニーニ、エルガーと、聞き慣れたクラシックの名曲が、名器アントニオ・ストラディバリウスで奏でられる。

川井郁子は毎土曜日、テレビ東京「ミュージズの晚餐」に出演している。この番組のファンは多いと思われるが、またの人にはぜひお勧めしたい音楽番組だ。